

令和元年度版

かながわの学びの充実・改善のために

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



児童・生徒の皆さんへ

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、小・中学生の「文章を書くチカラ」をもっと伸ばしたいと考えています。

児童・生徒の皆さんへの提案です。一日一行、文章を書く習慣を身につけましょう。県教育委員会では、[365一行日記]のフォーマットをホームページに掲載しています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f531252/>

教職員の皆さんへ

あらゆる場面で、一人ひとりのよい点や可能性に目を向け積極的に伝えるなど、児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ取組を進めていきましょう。

各学校で行っている授業改善の取組が、確実に児童・生徒の「授業に対する意欲的な姿勢」や「伝えたいことを適切に話す力」につながっていることが、全国学力・学習状況調査の結果から明らかになっています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f531252/>

令和2年1月
神奈川県教育委員会

*本資料に掲載した数値については、基本的に政令市を含めた全県のデータとしている。なお、参考として一部、県域（政令市を除いた地域）のデータを示した箇所もある。

本資料作成の趣旨

全国学力・学習状況調査（以下、「本調査」という。）の目的の一つは、学校が、本調査結果を活用することで、日ごろの教育活動の成果や課題を把握し、その充実と改善を図ることにあります。

この点について、**本県の公立小・中学校における取組の現状と課題**は次のとおりです。

学校質問紙調査の「**自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか**」に対し「よく行った」と回答した学校の割合

小学校：8.3% (H25) → 21.6% (H29) → 20.6% (H30) → **19.4% (H31)** 全国 42.5% (H31)
中学校：7.9% (H25) → 19.6% (H29) → 16.9% (H30) → **21.7% (H31)** 全国 34.5% (H31)



学校では、本調査結果の活用の際し、調査対象の学年や教科だけの取組とせず、**全教職員で共有し、学校全体で教育活動の充実・改善を進めることが必要です。**

これまで県教育委員会では、各学校の取組の参考となるよう、平成28年度に本調査結果を総合的に分析し、全県の傾向を「**かながわの強みと課題**」として整理しました。

さらに、平成29年度以降、各学校がこの強みを生かし課題を改善するための取組例などを「**学びの充実・改善ポイント**」として示してきました。

そうした中、今年度の本調査では、これまでA問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）に分かれていた「**教科に関する調査（国語、算数・数学）**」が、一体的に問われることになりました。

また、中学校英語の調査が新たに実施（3年に1回実施予定）されました。

これを受け、県教育委員会では、**今回の調査結果から全県の傾向を整理し直し、改めて「学びの充実・改善ポイント」（p. 25）として示すこととしました。**

また、各学校が、本資料で取り上げた設問や項目について自校の傾向を確認できるよう、**学校のデータを書き込む欄**を設けたほか、課題として取り上げた設問等について、**成果を上げている学校へのインタビュー結果から各学校の取組のヒントとなるコラム**を掲載しました。

市町村教育委員会及び学校では、本資料を参考に、それぞれの地域・学校における強みと課題を踏まえた、**学びの充実・改善に向けた取組の推進**をお願いします。

本資料の構成

I	教科に関する調査の結果	p. 3
II	質問紙調査の結果	p. 20
III	学びの充実・改善ポイント	p. 25
IV	参考情報	p. 27

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の概要

調査期日 平成 31 年 4 月 18 日 (木)

集計学校数、児童・生徒数 (対象者：小学校第 6 学年児童、中学校第 3 学年生徒)

参加校 小学校 863 校 (小学校 853、特別支援学校小学部 8、義務教育学校(前期) 2)
中学校 419 校 (中学校 408、特別支援学校中学部 7、中等教育学校(前期) 2、
義務教育学校(後期) 2)

参加者 小学校 約 7 万 3 千人、中学校 約 6 万 2 千人

【参考】 県域 (政令指定都市 (横浜市、川崎市、相模原市) を除いた地域)

参加校 小学校 332 校 (小学校 328、特別支援学校小学部 4)

中学校 179 校 (中学校 174、特別支援学校中学部 3、中等教育学校(前期) 2)

参加者 小学校 約 2 万 6 千人、中学校 約 2 万 4 千人

調査事項 教科に関する調査 (小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語)

*昨年度までは、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」
を分けて調査していたが、今回から一体的に問われることになった。

*中学校英語は今回初めての実施。3年に1回実施予定。

学校質問紙調査

各学校を対象とした、指導方法に関する取組等に関する質問

(小学校 64 項目、中学校 80 項目)

児童生徒質問紙調査

調査学年の児童生徒を対象とした、学習意欲や学習方法、生活等に関する質問

(小学校 58 項目、中学校 69 項目)

留意事項 本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。 出典：平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領

I 教科に関する調査の結果

平均正答数・平均正答率

*県及び県域の平均正答率は、国から小数第 1 位を四捨五入した整数値で提供された。

*中学校英語の調査結果は、「話すこと」を除いた「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の集計値。

平成31年度	小学校調査				中学校調査					
	国語		算数		国語		数学		英語	
	(14問)		(14問)		(10問)		(16問)		(21問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)								
全 国	8.9	63.8	9.3	66.6	7.3	72.8	9.6	59.8	11.8	56.0
神奈川県	8.5	61	9.4	67	7.3	73	9.5	59	12.3	59
全国との差	-0.4	-2.8	0.1	0.4	0	0.2	-0.1	-0.8	0.5	3.0

<参考> *県域は、政令指定都市 (横浜市、川崎市、相模原市) を除いた地域

県 域	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
県 域	8.0	57	9.0	64	7.2	72	9.5	59	12.1	58
全国との差	-0.9	-6.8	-0.3	-2.6	-0.1	-0.8	-0.1	-0.8	0.3	2.0

(文部科学省平成 31 年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成)

本県の公立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

【参考】 全国の平均正答率(公立)の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

<出典>平成 31 年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書 (文部科学省 国立教育政策研究所)

各教科の調査結果 主な特徴

小学校 国語

- 「読むこと」に関する設問の平均正答率が高い。
- △漢字を書く設問の平均正答率が低い。
- △自分の考え等をまとめて記述する設問の平均正答率が低い。
- 「国語の学習を生活に活かそうとする」など、国語の学習や授業に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っている。
- △記述式の設問で「最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。
- △「解答時間が十分」と回答した児童の割合が全国平均を5ポイント以上下回っている。

詳細は5ページ～7ページに記載

中学校 国語

- 「書くこと」に関する設問の平均正答率が高い。
- 「話すこと・聞くこと」に関する設問の平均正答率が全国平均を上回っている。
- △話合いの流れを踏まえ、自分の考えを記述する設問の平均正答率が低い。
- 「国語の勉強は好き」など、国語の学習や授業に対して肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を上回っている。
- 「解答時間が十分」と回答した生徒の割合が全国平均を上回っている。
- △記述式の設問で「最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。

詳細は8ページ～10ページに記載

小学校 算数

- グラフの読取りや図形の理解に関する設問の平均正答率が高い。
- △求め方の説明や、計算法の性質、判断した理由などを記述する設問の平均正答率が低い。
- 「算数の学習を生活で活用できないか考える」など、算数の学習や授業に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っている。
- △「解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。
- △記述式の設問で「最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。

詳細は11ページ～13ページに記載

中学校 数学

- 図形の理解に関する設問の平均正答率が高い。
- △問題解決方法や判断理由等の説明を記述する設問の平均正答率が低い。
- 「数学の勉強は好き」「数学の授業は分かる」と回答した生徒の割合が全国平均を上回っている。
- 「解答時間が十分」と回答した生徒の割合が全国平均を上回っている。
- △記述式の設問で「最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。

詳細は14ページ～16ページに記載

中学校 英語

- 情報を正確に聞き取る設問の平均正答率が高い。
- ほとんどの設問の平均正答率が全国平均を上回っている。
- △自分の考えや意見、他者へのアドバイスなどを記述する設問の平均正答率が低い。
- 「英語の勉強は大切」「英語の学習は将来役立つ」と回答した生徒の割合が高い。
- 「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」と回答した生徒の割合が全国平均を5ポイント以上上回っている。
- 授業でスピーチやプレゼンなど、発表する活動が行われていたと回答した生徒の割合が高い。
- △授業で、自分の考えや内容のまとめなどを英語で書く活動が行われていたと回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。

詳細は17ページ～19ページに記載

【参考】平均正答率80%以上：成果として認められる。 平均正答率70%未満：課題として考えられる。
 出典：全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
 (平成24年3月 文部科学省 国立教育政策研究所)

小学校 国語

集計結果 分類・区分別

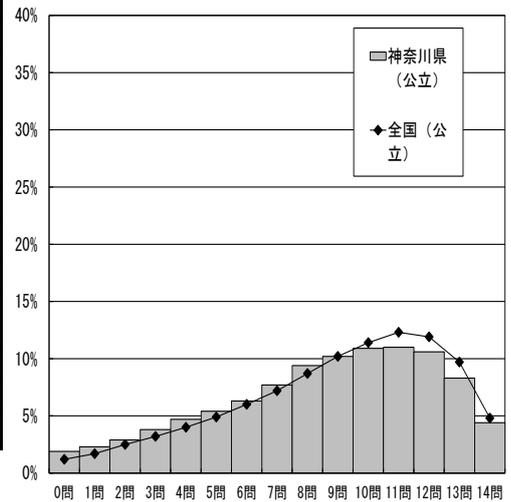
自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県	全国	差	学校
全体		14	61	63.8	-2.8	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.1	72.3	-3.2	
	書くこと	3	52.7	54.5	-1.8	
	読むこと	3	80.3	81.7	-1.4	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	49.2	53.5	-4.3	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	54.0	57.6	-3.6	
	話す・聞く能力	3	69.1	72.3	-3.2	
	書く能力	3	52.7	54.5	-1.8	
	読む能力	3	80.3	81.7	-1.4	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	5	49.2	53.5	-4.3	
	選択式	7	73.4	75.1	-1.7	
	短答式	4	44.0	48.7	-4.7	
	記述式	3	54.0	57.6	-3.6	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	8.5 / 14	9.0	3.5
全国	8.9 / 14	10.0	3.4
学校	/ 14		



国語に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	差	学校
37	国語の勉強は好きですか	64.3	64.2	0.1	
38	国語の勉強は大切だと思いますか	93.5	93.0	0.5	
39	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.6	84.9	0.7	
40	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.6	91.2	0.4	
41	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	77.8	76.9	0.9	
42	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	77.7	78.1	-0.4	
43	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	69.1	68.5	0.6	
44	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	71.9	71.4	0.5	
45	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか → 「最後まで解答を書こうと努力した」	77.4	80.4	-3.0	
57	解答時間は十分でしたか	67.5	74.2	-6.7	

自校のデータを
記入しましょう。

自校のデータを
記入しましょう。

主な特徴

A 成果として認められる主な設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

- ① 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
- ② 二
「知りたいこと」を調べるために、本の目次から、読むページとして適切なものを選択する設問
- ② 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく
- ② 一（1）
生活の中で「疑問に思ったこと」について、資料を読み、疑問の答えとして、適切なものを選択する設問

	正答率
県	85.7%
全国	88.5%
学校	%

県	81.3%
全国	80.7%
学校	%

B 課題として考えられる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

- ① 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
- ① 三
調べたことを報告する文章を読み、「調査の内容と結果」を基に、「考察」について、40 字以上 70 字以内で記述する設問
- ② 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
- ① 四（1）ウ
文章中の熟語を、漢字を使って書き直す設問
「かんしん（関心）をもってもらいたい」

	正答率
県	26.9%
全国	28.8%
学校	%

県	33.3%
全国	35.6%
学校	%

C 全国の平均正答率より 5 ポイント以上低く、課題と考えられる設問

- ① 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
- ① 四（1）ア
文章中の熟語を、漢字を使って書き直す設問
「調査のたいしょう（対象）」
- ② 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめて書く
- ③ 三
話し手の思いや考えに着目し、心に残ったことを 30 字以上 60 字以内で記述する設問

	正答率
県	34.3%
全国	41.9%
学校	%

県	61.4%
全国	68.2%
学校	%

指導のポイント

B①に対して

自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切です。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要です。

調べたことを報告する文章

調べた結果から自分がどのような考えをもったか

より説得力をもって自分の考えを伝えるためには、調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くことが重要です

文章全体の構成も踏まえて書くことも大切です。日常の作文指導においても必要に応じて、構成についてのアドバイスをするなど、指導を心がけることが大切です。

*詳細は「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」p30 を参照。

C②に対して

インタビューにおいて自分の考えをまとめるとは、相手が話した内容と自分の経験や考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、考えをまとめることです。そのためには相手からどのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するのかのように、インタビューの目的を明確にもって聞くことが重要です。

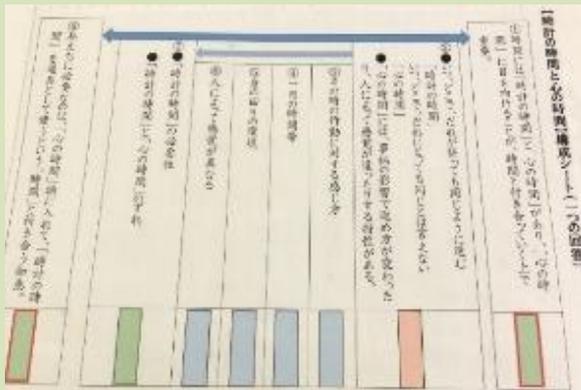


*詳細は「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」p54を参照。

B①の設問について 正答率が高い A小学校の先生の話

*児童質問紙調査の「(42)国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が高い学校です。

落ち着いて学習に取り組む一方で、自分の考えをもって相手と話し合うことが苦手な子どもが多い、という本校の児童の実態を踏まえ、研究テーマを設定しました。



国語科の授業では、説明的な文章を学習する際に「文章構成シート」を活用します。段落の役割や段落相互の関係、筆者の意見とその根拠となる事実などを理解し、それらのことから自分の考えを書き、対話を通して考えをまとめさせています。

子どもたちは日々、「自主学習ノート」を使い、二つの課題に取り組んでいます。

一つは、5行以上の日記を書くことです。3年生から続けているので、子どもたちは、まとめた文章を書くことに慣れてきたようです。また、日記を書く習慣は、自分の言動や考えを振り返ることになり、児童指導上も有効です。

もう一つは、自分が興味をもったことを調べることです。調べることは、社会科で学習した人物、国語科で読んだ物語の作者、ラグビーの歴史など様々です。

私たち教員も、子どもたちが興味をもって調べ学習に向かえるように、授業中に「これを自学で調べると面白いかもね」といった声かけをします。



中学校 国語

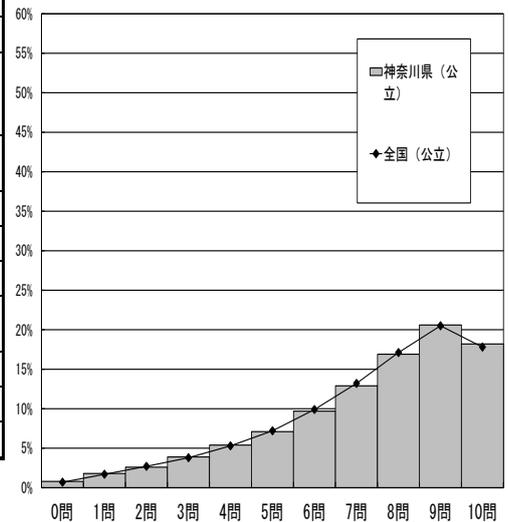
集計結果 分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県	全国	差	学校
全体			73	72.8	0.2	
学習指導要 領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.6	70.2	0.4	
	書くこと	2	82.0	82.6	-0.6	
	読むこと	3	72.5	72.2	0.3	
	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	2	67.0	67.7	-0.7	
評価の観点	国語への関心・意 欲・態度	3	76.3	76.5	-0.2	
	話す・聞く能力	3	70.6	70.2	0.4	
	書く能力	2	82.0	82.6	-0.6	
	読む能力	3	72.5	72.2	0.3	
	言語についての知 識・理解・技能	2	67.0	67.7	-0.7	
問題形式	選択式	6	73.8	73.6	0.2	
	短答式	1	55.4	56.8	-1.4	
	記述式	3	76.3	76.5	-0.2	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	7.3 / 10	8.0	2.4
全国	7.3 / 10	8.0	2.4
学校	/ 10		



※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

国語に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	差	学校
40	国語の勉強は好きですか	63.2	61.7	1.5	
41	国語の勉強は大切だと思いますか	90.8	91.0	-0.2	
42	国語の授業の内容はよくわかりますか	79.1	77.6	1.5	
43	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.2	88.0	0.2	
44	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	70.9	71.6	-0.7	
45	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	76.9	77.4	-0.5	
46	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	65.2	64.4	0.8	
47	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	68.9	68.4	0.5	
48	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか → 「最後まで解答を書こうと努力した」	79.0	79.8	-0.8	
67	解答時間は十分でしたか（国語）	92.6	90.3	2.3	

自校のデータを
記入しましょう。

主な特徴

A 成果として認められる主な設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

① 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ

1 三

掲載されている短歌から一首を選び、想像できる情景や心情、感じたことや考えたことを記述する設問

自校のデータを
記入しましょう。

	正答率
県	90.8%
全国	91.2%
学校	%

② 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する

3 一

意見文の下書きに書き加える言葉として、適切なものを選択する設問

県	87.1%
全国	87.4%
学校	%

B 課題として考えられる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

① 封筒の書き方を理解して書く

1 四

投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く設問

	正答率
県	55.4%
全国	56.8%
学校	%

② 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ

2 三

話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について、自分の考えを記述する設問

県	61.4%
全国	60.4%
学校	%

C 全国の平均正答率より 5 ポイント以上低く、課題と考えられる設問

該当なし

指導のポイント

A②に対して

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くように指導することが大切です

事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加える。



表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選ぶ。

書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができるようになるために・・・

読み手が文章を読む意図や目的を意識して推敲



書いた文章を互いに読み合い、題材の捉え方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べるなど、視点を明確にして交流



* 詳細は「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」p44 を参照。

B②に対して

話し合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切です。

必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるように指導することも重要



小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられます



話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながら進めるように指導することも効果的です



*詳細は「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」p41を参照。

B②の設問について 正答率が高い B中学校の先生の話

*生徒質問紙調査の「(45)国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校です。

「あたたかな聴き方」「やさしい話し方」を実現するために全教室に掲示。話し合う活動のときなどに、大切にしている項目を明確にする。

「あたたかな聴き方」「やさしい話し方」を実現するために	
聴き方	話し方
自分の考えを深めたい広めたいするつもりで聴く。	日常生活などの経験をもとに自分の考えを話す。
自分の考えと比べながら聴く。	人の考えや意見につなげて話す。
話し手の言いたいことを分かろうとして聴く。	結論から言い、理由(根拠)を明らかにする。
話を最後まで聴く。	聞き手の反応を確かめながら話す。
うなずいたりつぶやいたりして聴く。	みんなに聞こえるような声の大きさで話す。
話し手の方を見て聴く。	みんなの方を向いて話す。

本校では「あたたかな聴き方」「やさしい話し方」の表を全教室に掲示し、各教科の授業等の学習活動に合わせて重点化する項目を矢印で示し、生徒と共有しています。



ペアやグループで話し合いを行うときには、「個→集団→個」の流れを大切に、個人で考えたり、他者の考えを踏まえて自分の考えをまとめたりしています。

活発な話し合い活動が目的ではなく、個人で考えを持つことが目的だと考えているからです。

この表は、生徒が話し合いの進め方を理解し、実行するようになるためのものですが、同時に、教員が生徒の活動を把握する指標としても活用します。

授業研究会では、生徒の様子や発言内容に基づき教員が意見交換をします。それは、新たに着任した教員が、本校の授業の進め方を理解するうえでも役立っています。

小学校 算数

集計結果

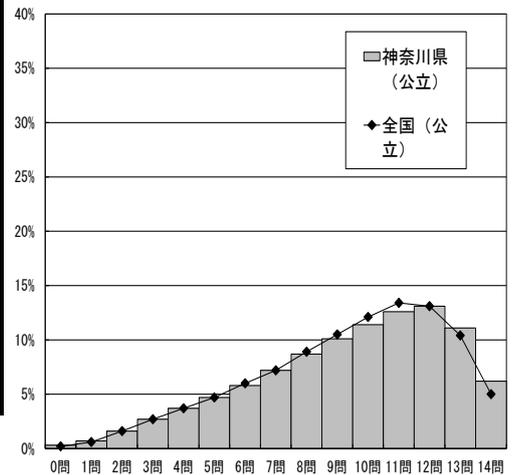
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県	全国	差	学校
全体		14	67	66.6	0.4	
学習指導要 領の領域等	数と計算	7	63.3	63.2	0.1	
	量と測定	3	54.1	52.9	1.2	
	図形	2	76.6	76.7	-0.1	
	数量関係	7	68.7	68.3	0.4	
評価の観点	算数への関心・意 欲・態度	0			0.0	
	数学的な考え方	8	63.0	62.2	0.8	
	数量や図形につい ての技能	4	73.4	73.6	-0.2	
	数量や図形につい ての知識・理解	2	69.7	70.1	-0.4	
問題形式	選択式	5	75.8	75.7	0.1	
	短答式	5	72.8	72.8	0.0	
	記述式	4	48.5	47.4	1.1	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.4 / 14	10.0	3.2
全国	9.3 / 14	10.0	3.1
学校	/ 14		



※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

算数に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	差	学校
46	算数の勉強は好きですか	68.8	68.6	0.2	
47	算数の勉強は大切だと思いますか	93.9	93.7	0.2	
48	算数の授業の内容はよくわかりますか	83.1	83.5	-0.4	
49	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	92.5	0.1	
50	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	77.8	76.5	1.3	
51	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	79.1	79.1	0.0	
52	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	80.8	82.0	-1.2	
53	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	81.1	82.1	-1.0	
54	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	84.1	84.0	0.1	
55	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	86.8	87.0	-0.2	
56	今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか → 「最後まで解答を書こうと努力した」	78.7	80.7	-2.0	
58	解答時間は十分でしたか	84.0	84.0	0.0	

自校のデータを
記入しましょう。

主な特徴

A 成果として認められる主な設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

①棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる

② (1)

10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選択する設問

②台形について理解している

① (1)

長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選択する設問

自校のデータを
記入しましょう。

	正答
県	94.9%
全国	95.2%
学校	%

県	92.3%
全国	93.1%
学校	%

B 課題として考えられる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

①示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる

③ (2)

減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなのかを記述する設問

解答類型	1・2 (正答)	8 (誤答)	無解答
県	31.6%	12.1%	13.2%
全国	31.1%	15.2%	10.8%
学校	%	%	%

正答の条件は、①わられる数とわる数に同じ数をかけることを表す言葉、②わられる数とわる数を同じ数で割ることを表す言葉、③商が変わらないことを表す言葉、の3つが揃っていることですが、「解答類型8」は③の条件が不十分の誤答です。

②示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる

① (3)

減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して記述する設問

解答類型	1 (正答)	3 (誤答)
県	45.2%	15.5%
全国	43.9%	16.6%
学校	%	%

「解答類型3」の誤答例としては、20が長方形の面積を表していることと、4が三角形の面積を表していることは記述できているが、「 $20-4$ 」が、長方形の面積から三角形の面積を取り去る式だということが記述されていないというもの。問題文の理解が不十分であると考えられます。

C 全国平均正答率より 5 ポイント以上低く、課題と考えられる設問

該当なし

指導のポイント

B①に対して

正誤だけではなく、解答類型を見ていくことで、児童がどこでどのようにつまづいているかを分析し、どのような指導が必要かを考えることができます。



計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにすることが大切です。

そのためには、例えば、商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見出す活動が考えられます。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていきながら、見出したことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるように指導しましょう。

*詳細は「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 算数」p48 を参照。

B②に対して

図形の構成についての見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方について説明することができるようにすることが大切です。

そのためには、例えば本設問を用いて、面積の求め方について説明し合う活動が考えられます。

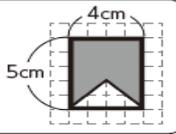
③ 示された図形の面積の求め方を解釈し説明する。

$$\begin{aligned} 5 \times 4 &= 20 \\ 4 \times 2 \div 2 &= 4 \\ 20 - 4 &= 16 \quad \text{答え } 16 \text{ cm}^2 \end{aligned}$$

この式で面積を求めた人がいました。どのような考え方で求めたのかを考えましょう。

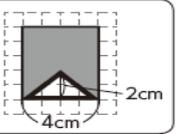
5×4 は、長方形の面積を求めているのだと思います。

その長方形は、この図のようにたてが5cm、横が4cmの長方形だと思います。



4×2÷2 は、三角形の面積を求めているのだと思います。

その三角形は、この図のように底辺が4cm、高さが2cmの三角形だと思います。



20-4 は、長方形の面積から三角形の面積を引いて、この形(■)の面積を求めているのだと思います。

この形(■)を、長方形から三角形を取り去ってできる形とみているのですね。

5×4=20
4×2÷2=4
20-4=16
この3つの式を1つの式で表すこともできます。

$$\begin{array}{r} 5 \times 4 \\ \hline \text{長方形の面積} \end{array} - \begin{array}{r} 4 \times 2 \div 2 \\ \hline \text{三角形の面積} \end{array} = 16$$




式は計算の結果を求めるための手段だけでなく、思考の筋道を表現する手段としても用いられます。数や演算に着目して、既習の面積の求積公式を基に、図形をどのように捉えたのかを説明することができるようにすることが大切です。

* 詳細は「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 算数」p28を参照。

B①の設問について 正答率が高い C小学校の先生の話

* 児童質問紙調査の「(46)算数の勉強は好きですか」、「(51)算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が高い学校です。

授業中は、児童同士の「学び合い」を大切にしています。

分かった気になっている児童が、確かに分かったということを実感するために、「学び合い」を通して、「しつこいけど念のためね」と言いながら、分かったことを言葉で表現してもらっています。

新しい問題に、みんなで立ち向かう姿が見られますし、「学び合い」により、確かなものとなった自分の考えを、言葉で表現することに抵抗感はないように思います。



きっかけは、校内研究会に招いた大学教授が紹介してくれた、他校の授業を記録した動画でした。

児童と一緒に動画を視聴しました。児童からは、「ああ、こうして発言すればいいんだ」という声が聞かれるなど、「学び合い」の進め方を学んでくれたようで、翌日から、劇的に授業に取り組む姿勢が変わりました。

今後の課題は、活動を通して、しっかりと資質・能力を育むことです。

中学校 数学

集計結果 分類・区分別

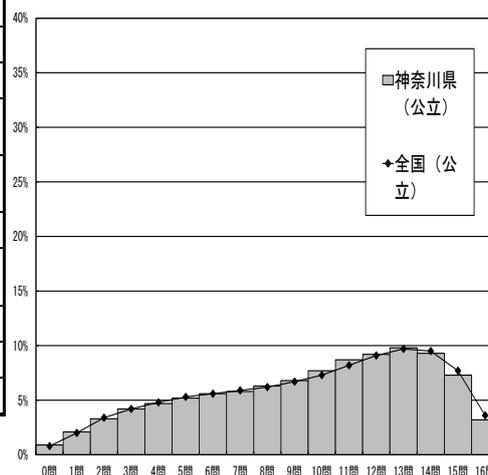
自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県	全国	差	学校
全体		16	59	59.8	-0.8	
学習指導要 領の領域等	数と式	5	64.1	63.8	0.3	
	図形	4	73.5	72.4	1.1	
	関数	3	39.4	40.8	-1.4	
	資料の活用	4	54.7	56.3	-1.6	
評価の観点	数学への関心・意 欲・態度	0			0.0	
	数学的な見方や考え 方	8	51.7	51.0	0.7	
	数学的な技能	3	62.4	63.9	-1.5	
	数量や図形などに ついての知識・理解	5	70.2	71.3	-1.1	
問題形式	選択式	5	59.8	60.3	-0.5	
	短答式	7	66.1	66.6	-0.5	
	記述式	4	47.4	47.1	0.3	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.5 / 16	10.0	4.1
全国	9.6 / 16	10.0	4.2
学校	/ 16		



数学に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	差	学校
49	数学の勉強は好きですか	59.9	57.9	2.0	
50	数学の勉強は大切だと思いますか	81.8	84.2	-2.4	
51	数学の授業の内容はよく分かりますか	76.0	73.9	2.1	
52	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.7	76.2	-2.5	
53	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題 → 「最後まで解答を書こうと努力した」	58.4	60.8	-2.4	
68	解答時間は十分でしたか（数学）	87.1	84.7	2.4	

自校のデータを
記入しましょう。

主な特徴

自校のデータを
記入しましょう。

A 成果として認められる主な設問（平均正答率 80%以上より 1 問）

① 平行移動の意味を理解している

3

△ABC を、矢印の方向に△DEF まで平行移動したとき、移動の距離を求める設問

	正答
県	84.0%
全国	83.6%
学校	%

B 課題として考えられる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

6 (2)

冷蔵庫 B と冷蔵庫 C の総費用が等しくなる使用年数について、式やグラフを用いて求める方法を説明する設問

	正答	無解答
県	34.2%	12.8%
全国	34.7%	11.6%
学校	%	%

誤答例としては、連立方程式やグラフを用いることを指摘しているものの、そこから使用年数の値を求める具体的な説明が不十分であったものが挙げられます。

② 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

8 (2)

「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する設問

解答類型	1～4 (正答)	8 (誤答)	無解答
県	38.6%	9.9%	21.8%
全国	40.8%	9.6%	21.3%
学校	%	%	%

正答の条件は、①1日あたりの読書時間である26分が、山の頂上の位置にないこと、②1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていないこと、③1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ、という考えは適切ではないことのうち、①と③、または②と③が揃っていることです。

「解答類型8」は、②について度数の大小のみを記述し、③について記述していない解答です。

C 全国の平均正答率より5ポイント以上低く、課題と考えられる設問

① 数の集合と四則計算の可能性について理解している

1

a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選択する設問

解答類型	1 (正答)	2 (誤答)
県	57.0%	20.0%
全国	62.2%	15.1%
学校	%	%

「解答類型2」の中には、 a と b が正の整数のとき、「 a と b の差だけが正の整数にならないことがある」と捉えている生徒がいると考えられます。

指導のポイント

B①に対して

問題解決のために、数学を活用する方法を考え、説明できるようにすることが大切です。

そのために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「使い方」について明らかにすることができるように指導しましょう。

6 事象の数学的な解釈と問題解決の方法 (冷蔵庫) (2)

電気店の店員が、健太さんに冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて購入を勧める場面

もし、みなさんが電気店の店員なら、健太さんにどちらの冷蔵庫を勧めますか？

本体価格は冷蔵庫Cの方が高いし、電気代は冷蔵庫Bの方が高いな。

総費用は最初のうちは冷蔵庫Cの方が高いけど…、いつか総費用は等しくなるのかな。

2つの冷蔵庫について、総費用が等しくなる時がありそうですね。その時の使用年数を求めるには、どうしたらよいでしょうか。

総費用を求めるために式を使えばわかるかも。

その式で一次関数の式をつくらせてみるのいいかな。

グラフをかいてみたらわかりそうだよな！

問題解決の過程を振り返り、問題解決の方法について振り返る場面を設定すること

健太さんは、500Lの冷蔵庫の購入を考えています。

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + (\text{1年間あたりの電気代}) \times (\text{使用年数})$
 冷蔵庫Bの式は、 $y = 11000x + 100000$ と表すことができる。

方法の説明について課題がある。生徒の記述から、総費用が等しくなる使用年数の値を求めるに至る過程について数学的な表現を用いていない解答がみられた。授業では、問題解決の構想や見通しを立て、問題解決の方法について説明する活動を重視し、立てた構想や見通しと問題解決の方法の説明について比較し、方法の説明について吟味することで、説明を洗練させていくことが大切である。

記述式問題における3つの説明

- ・見いだした事柄や事実を説明する問題
- ・事柄を調べる方法や手順を説明する問題
- ・事柄が成り立つ理由を説明する問題

記述式問題の解答方法を指導するだけでなく、授業に、生徒が数学的に説明する活動を取り入れることが大切です。

*詳細は「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 数学」p37を参照。

B②に対して

資料の傾向を捉えて、批判的に考察し、判断した理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切です。

そのために例えば、平均値が代表値としてふさわしいかどうかをデータの分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられます。

「批判的に考察する」とは、物事を単に否定することではなく、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすことです。

*詳細は「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 数学」p50を参照。

C①に対して

数の集合と関連付けて四則計算の可能性について考察できるようにすることが大切です。

そのためには、日ごろの授業の中に、計算の仕方を学んだり、計算練習を行ったりすることに加え、「なぜそうなるのか」など根本的な問いについて深く考える場面を多く設定しましょう。

*詳細は「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 数学」p21を参照。

B①の設問について
正答率が高い
D中学校の先生の話

*生徒質問紙調査の「(53)今回の数学の問題について、解答や言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校です。

意見交換を多く設定しています。
例えば、ペア学習、席を移動して多くの生徒への説明、周りを見て困っている人に教える活動などを行います。

レポート作成を課題としています。
例えば、立体をある平面で切ったときの切り口の形を説明することや、ある事象に対する確率の結果を論理的に説明するなどのレポートです。

分からない子が「分からない」と発言できる雰囲気を大切にしています。

毎回の授業の終わりには「分かったこと」「どれくらい説明できたか」等を振り返り、記述しています。

中学校 英語

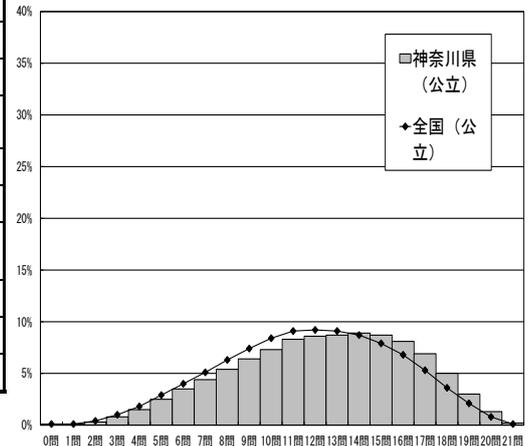
集計結果 分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県	全国	差	学校
全体		21	59	56.0	3.0	
学習指導要 領の領域等	聞くこと	7	70.1	67.9	2.2	
	話すこと (参考値)				0.0	
	読むこと	6	57.4	55.6	1.8	
	書くこと	8	49.7	45.8	3.9	
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	0			0.0	
	外国語表現の能力	1	2.4	1.8	0.6	
	外国語理解の能力	6	46.7	44.7	2.0	
	言語や文化についての 知識・理解	14	67.9	64.7	3.2	
問題形式	選択式	13	73.6	71.4	2.2	
	短答式	5	50.1	45.2	4.9	
	記述式	3	8.7	6.8	1.9	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	12.3 / 21	13.0	4.0
全国	11.8 / 21	12.0	3.9
学校	/ 21		



※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

英語に関する生徒の意識 (生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合)

	質問	県	全国	差	学校
54	英語の勉強は好きですか	58.4	56.0	2.4	
55	英語の勉強は大切だと思いますか	86.8	85.4	1.4	
56	英語の授業はよく分かりますか	67.9	66.0	1.9	
57	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.1	85.4	1.7	
58	あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会 (地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど) が十分にありましたか	37.2	33.8	3.4	
59	あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	46.8	41.3	5.5	
60	授業では、英語を聞いて (一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	76.9	79.2	-2.3	
61	授業では、英語を読んで (一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	78.9	81.2	-2.3	
62	授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	64.1	62.9	1.2	
63	授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	81.1	77.2	3.9	
64	授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	78.8	80.1	-1.3	
65	授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	76.9	77.4	-0.5	
66	授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	73.2	74.6	-1.4	
69	解答時間は十分でしたか	68.3	63.0	5.3	

自校のデータを
記入しましょう。

主な特徴

A 成果として認められる主な設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

- ① 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる

1(1)

ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する設問

- ② 「教室英語」を理解して、情報を正確に聞き取ることができる

1(2)

「教室英語」を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する設問

自校のデータを
記入しましょう。

	正答
県	91.9%
全国	91.1%
学校	%

県	90.7%
全国	88.6%
学校	%

B 課題として考えられる設問（平均正答率 70%未満より 3 問）

- ① 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる

10

学校を表す 2 つのピクトグラムの場合を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く設問

- ② 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる

4

来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く設問

- ③ 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる

8

食料問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く設問

	正答
県	2.4%
全国	1.8%
学校	%

県	11.0%
全国	7.6%
学校	%

県	12.6%
全国	10.9%
学校	%

C 全国平均正答率より 5 ポイント以上低く、課題と考えられる設問 該当なし

指導のポイント

B②に対して

目的・場面・状況に応じて、どのような内容を聞き取るべきか考えながら聞くとともに、適切に応じることができるようにすることが大切です。

【学習の流れ（工夫・改善例）】

- ① 教員は、聞く活動における場面設定などを工夫する
- ② 教員は、生徒とのやり取りを通じて、聞く内容以外で、できるだけ情報を示す
- ③ 教員は、聞いた後に何をすべきか明確にし、生徒は、目的をもって英語を聞く
- ④ 生徒は、話し手が求めていることや、それに合った応答について考える
- ⑤ 生徒は、1 度目の聞き取りの後、問いについてペアやグループで話し合う
- ⑥ 生徒は、内容を踏まえて自分の考えなどを話したり、書いたり表現する

単に、聞いて理解するだけの活動では不十分です。

こうした活動を繰り返し、徐々に指導のステップを少なくするとともに、日ごろから「Small Talk」等、英語を聞いて応じる活動を積み重ねましょう。



*詳細は「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語」p35 を参照。

B③に対して

読むだけに留めず、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べる
ことができるようにすることが大切です。

【学習の流れ（工夫・改善例）】

- ① 教員は、生徒とのやり取りを通じて、本文の内容以外でできるだけ多くの情報を示す
- ② 生徒は、教科書等にある社会問題などの説明文を読み、要点を数文にまとめる
- ③ 教員は、生徒とのやり取りを通じて、要点や概要に加えて「問題点」について示唆する
- ④ 生徒は、「問題点」に対して自分ができることなどについて、ペアやグループで話し合う
- ⑤ 生徒は、「問題点」に対する自分の考えを英語で簡潔にまとめて書く
- ⑥ 生徒は、書いた内容が正しいどうかをペアやグループで確認する（教員は確認）

こうした活動を日常的に繰り返す中で、生徒の実態に応じて指導のステップを少なくし、
最後は、自分だけで書けるように指導しましょう。



*詳細は「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語」p48を参照。

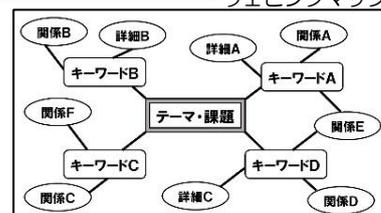
B①に対して

テーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまり
のある文章を書くことができるようにすることが大切です。

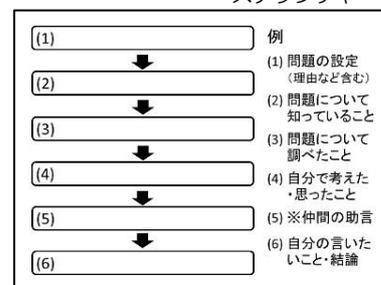
【学習の工夫・改善例】

- 内容面
 - ・書く前に、「ウェビングマップ」を使い、アイデアを広げる
 - ・自分の考えなどを、ペアやグループで伝え合う
- 文章構成面
 - ・まとまりのある文章を書く際に、「ステップチャート」を使い、文章を構成する
 - ・モデル文の一部を自分のことに変えるなど、段階的に書く
- 語彙面
 - ・テーマに関する語彙（キーワード等）についてグループ等を出し合う
 - ・辞書を使用する指導を積み重ね、生徒が自律的に学習できるようにする
- 表現面
 - ・教員は、意見を述べる際によく使う表現について、まとめて指導しておく

ウェビングマップ



ステップチャート



*詳細は「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語」p66を参照。

B①②③の設問について 正答率が高い E 中学校の先生の話

毎授業の帯活動として、1分半の「ペアでのフリートーク」を行っています。生徒の興味や、実施の時期に即して話したくなるテーマにするよう心がけています。

終わりには、生徒が言いたかったこと(もやもやポイント)について、学級全体で共有しています。

*生徒質問紙調査の「(54)英語の勉強は好きですか」及び「(56)英語の授業はよく分かりますか」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校です。

教科書は、本文を一文ずつ精読することはしません。概要や要点について、「個人→ペア→全体」の流れで内容を確認します。

また、語彙や文法は、小テストを実施し、スモールステップで学習します。

問題形式としては、和文英訳ではなく、対話文で前後の文脈から類推して解くような適語補充や、文の並べ替え、英作文を段階的に出題するようにしています。



Ⅱ 質問紙調査の結果

* 次の経年グラフは、「設問の開始年度及び、設問のあった直近3カ年」の4カ年を抽出しました。
 * 各数値は、その設問に肯定的な回答をした児童・生徒数及び学校数の割合を%で表しています。

児童・生徒の自己肯定感、挑戦心、達成感等に関する状況

△「自分にはよいところがあると思うか」や「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を下回っている。

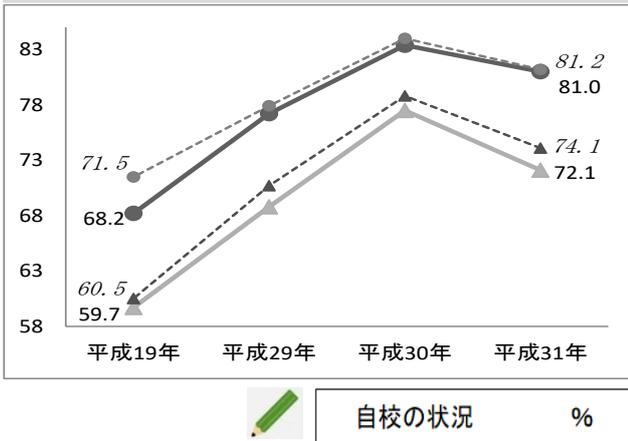
▶ クロス集計では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」に肯定的な回答をした児童・生徒の方が、国語、算数・数学、英語ともに平均正答率が高い傾向が見られた。

○ 「児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見付け積極的に評価している」に肯定的な回答をした学校の割合が、全国平均を上回っている。

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【児童生徒質問紙】

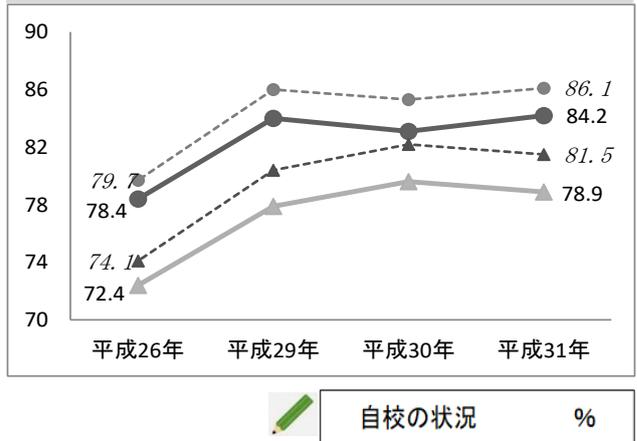
5.5 自分には、よいところがあると思いますか。



自校の状況 %

【児童生徒質問紙】

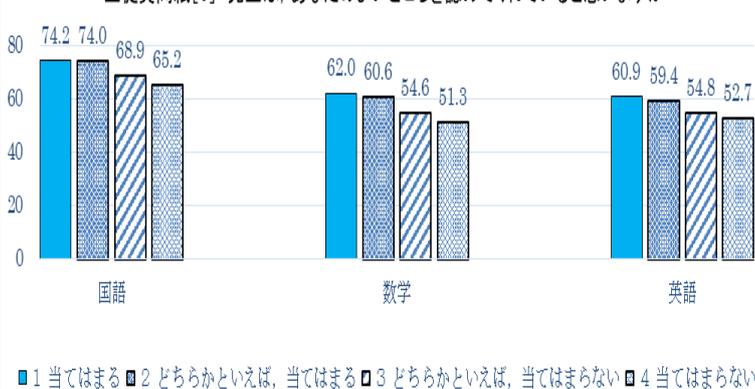
6.6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



自校の状況 %

クロス集計

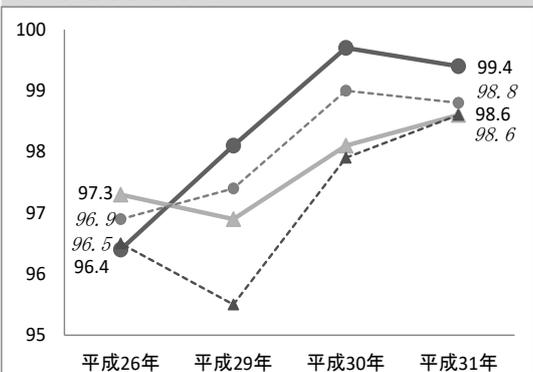
生徒質問紙[6] 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



■ 1 当てはまる ■ 2 どちらかといえば、当てはまる ■ 3 どちらかといえば、当てはまらない ■ 4 当てはまらない

【学校質問紙】

14.14 学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見付け、児童(生徒)に伝えるなど積極的に評価しましたか。



自校の状況

「自分にはよいところがあると思うか」や「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が高い学校の先生の話

F小学校

本校は、「聴く、考える、説明する」というテーマで校内研究を進めてきました。

各学級では、自分たちなりの「やさしい話し方」や「あたたかい聴き方」について、児童自身が考え、授業後には、自分たちの言動を振り返っています。

この取組の中で、私たちは、積極的に児童たちの話し方や聴き方について褒めるようにしています。

今では、全ての教員が大切にしている取組になっており、児童が、笑顔で考えを伝え合う姿がたくさん見られるようになってきました。

G中学校

本校では、保護者や地域の方々が、気軽に生徒の授業の様子を見に来ます。

そして、校内や校外で、生徒とあいさつを交わしたり、授業での発言や掃除への取り組み姿勢を褒めたりしています。生徒は、少し照れながらも嬉しそうにしています。

保護者や地域の方々が帰るとき、私たちに、生徒の様子から気付いたことや気になることを伝えてくれます。このような、大人同士のつながりにより、生徒を多面的・多角的に理解することができているような気がします。



△「難しいことでも失敗を恐れず挑戦しているか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を下回っている。

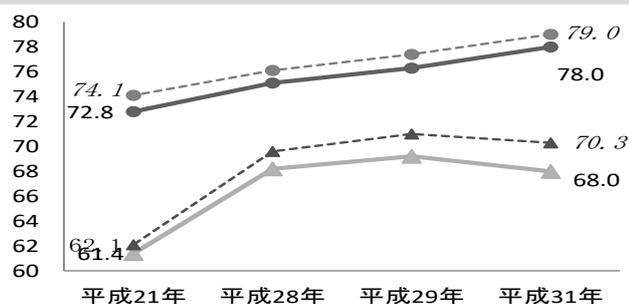
△中学校で、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均を下回っている。

△「学級みんなで協力して取り組みうれしかったことがあるか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を下回っている。

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【児童生徒質問紙】

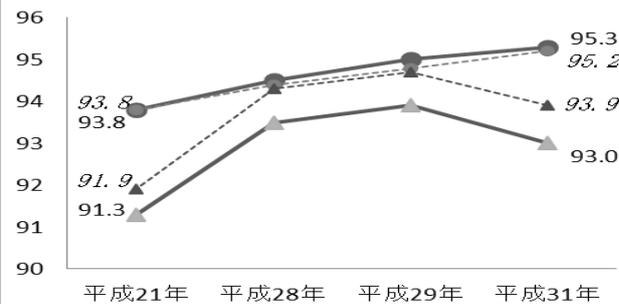
10.10 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。



自校の状況 %

【児童生徒質問紙】

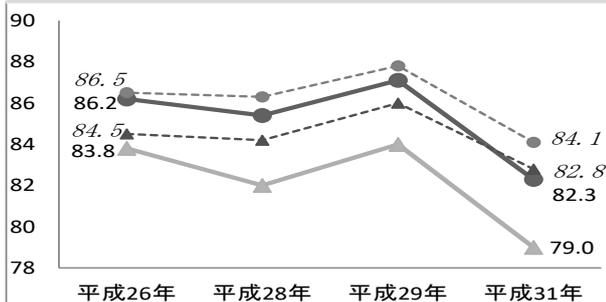
9.9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



自校の状況 %

【児童生徒質問紙】

11.11 学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。



自校の状況 %

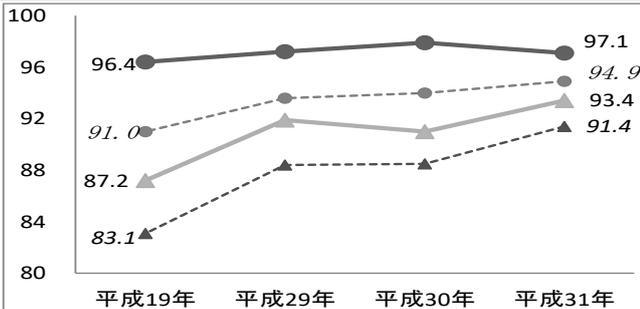
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況

○「学校でテーマを決め講師を招聘するなどの校内研修を行っているか」や、「小・中学校が合同で授業研究などの研修を行ったか」に肯定的な回答をした学校の割合が、全国平均を上回っている。

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【学校質問紙】

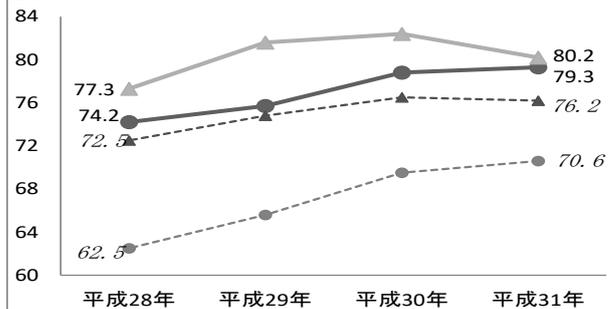
23, 24 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。



自校の状況

【学校質問紙】

52, 66 近隣の中(小)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。



自校の状況

△「授業では課題解決に向け自分で考え自分から取り組んでいたと思うか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を下回っている。

○「授業で自分の考えを工夫して発表していたか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を上回っている。

△「言語活動について学校全体として取り組んでいるか」に肯定的な回答をした学校の割合が、全国平均を下回っている。

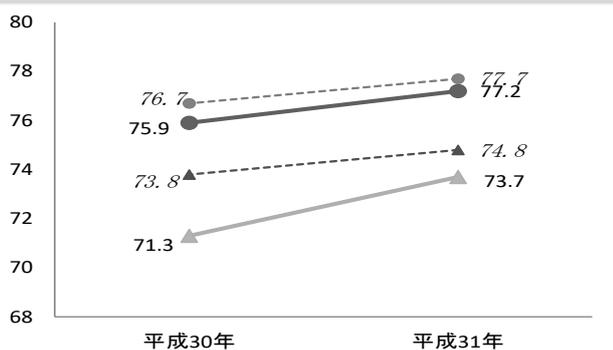
△「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできているか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を下回っている。

➤クロス集計では、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできているか」に肯定的な回答をした児童・生徒の方が、国語、算数・数学、英語ともに平均正答率が高い傾向が見られた。

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【児童生徒質問紙】

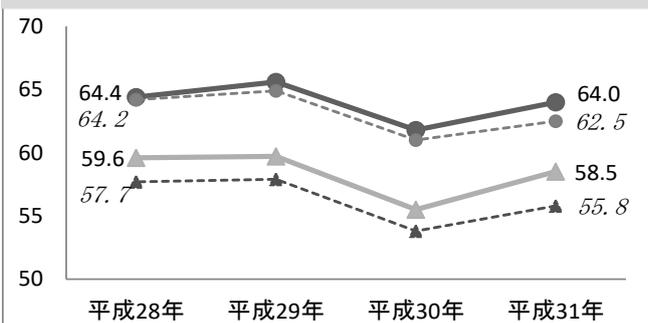
35, 37 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



自校の状況 %

【児童生徒質問紙】

36, 38 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

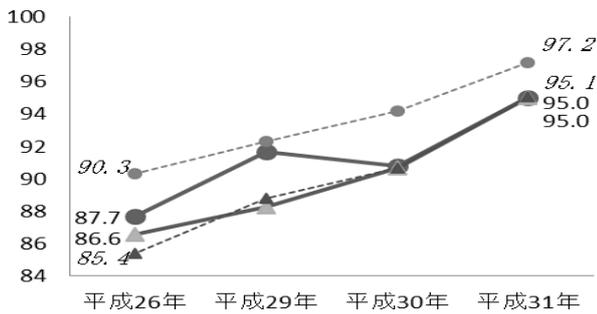


自校の状況 %

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【学校質問紙】

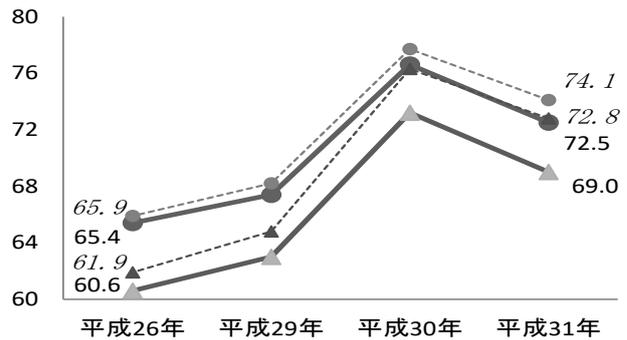
19.19 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。



自校の状況

【児童生徒質問紙】

29.32 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

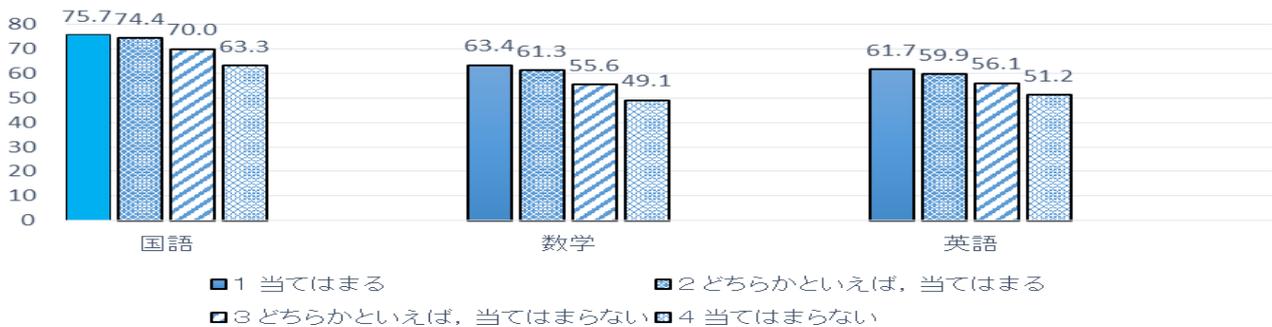


自校の状況

%

クロス集計

生徒質問紙[32] 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



児童・生徒一人ひとりへの学習指導・支援の取組状況

△小学校で、「学校の授業以外で1日当たり1時間以上勉強している」と回答をした児童の割合が、全国平均を下回っている。

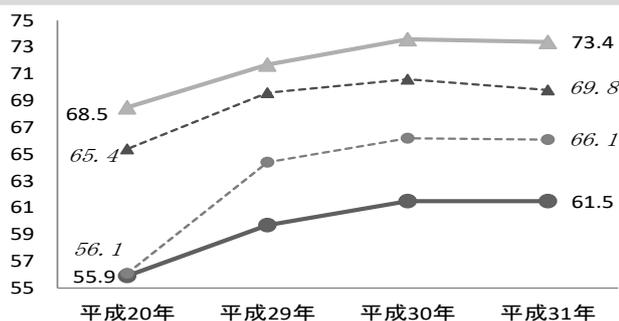
△「家で自分で計画を立てて勉強しているか」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均を下回っている。

▶クロス集計では、「家で自分で計画を立てて勉強しているか」に肯定的な回答をした児童・生徒の方が、国語、算数・数学、英語ともに平均正答率が高い傾向が見られた。

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【児童生徒質問紙】

18.18 学校の授業以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強をしている。(塾などを含む)

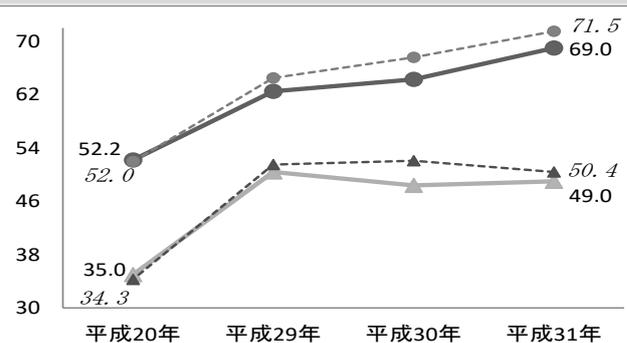


自校の状況

%

【児童生徒質問紙】

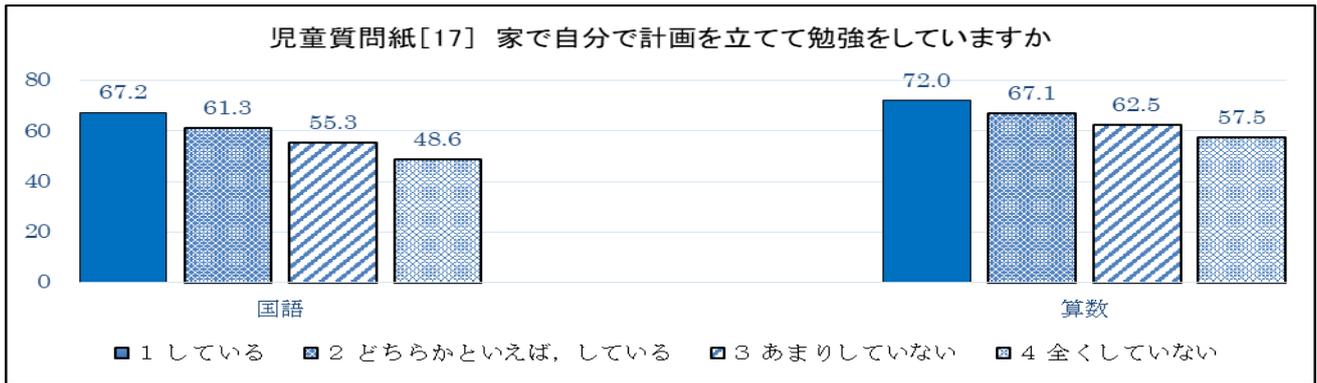
17.17 家で自分で計画を立てて勉強していますか。



自校の状況

%

クロス集計



「学校の授業以外で1日1時間以上勉強しているか」「家で自分で計画を立てて勉強しているか」に肯定的な回答をした児童の割合が高いH小学校の先生の話

職員室では、子どもたち一人ひとりの授業の様子を思い浮かべながら、その子に合った家庭学習の進め方について、学年職員が話し合っています。

家庭での学習の様子を、子どもからもよく聞いて、分からなかったことを教えたり、学習の進め方についてのアドバイスをしたりします。そして、できる限り励ますように声をかけています。

そうすると、子どもの笑顔がたくさん見られますし、ますますその子のことが分かるようになり、私たちも楽しくなります。



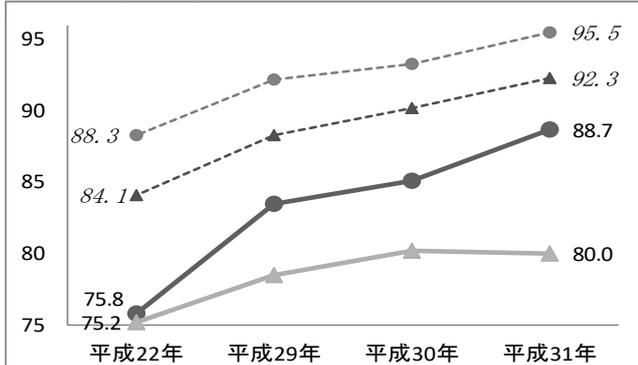
△「児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたか」に肯定的な回答をした学校の割合が、全国平均を下回っている。

○「教員が特別支援教育を理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行ったか」に肯定的な回答をした学校の割合が、全国平均を上回っている。

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

【学校質問紙】

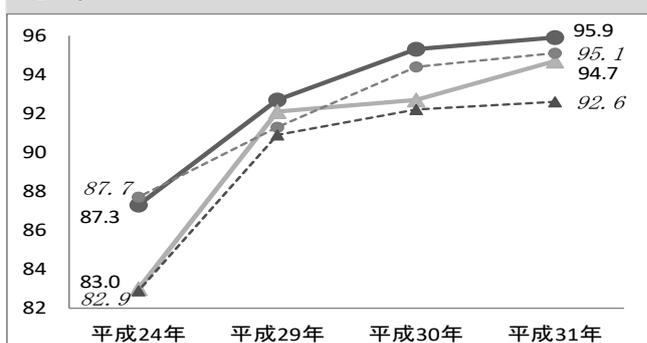
60, 74 家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法を、具体例を挙げながら教えるようにしましたか。



自校の状況

【学校質問紙】

50, 64 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童(生徒)に対する授業の中で、児童(生徒)の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか。



自校の状況

Ⅲ 学びの充実・改善ポイント

本県の公立小・中学校における全国学力・学習状況調査結果について、これまで示してきた「教科に関する調査」の今年度データと「質問紙調査」の経年データからは、全県的な傾向として次のようなことが読み取れます。

かながわの強みと課題

- 中学校英語において、「英語の学習は将来役立つ」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」などと回答した生徒の割合が全国平均を上回っており、これらが平均正答率の高さにつながっていると考えられる。(P4, 17)
- 外部講師を積極的に活用した校内研修や、小・中学校合同での授業研究が盛んである。(P22)
- 支援教育の視点から、児童・生徒一人ひとりの特性に応じた指導上の工夫を行っている学校の割合が高い。(P24)
- △国語、算数・数学、英語とも、自分の考えを記述する設問の平均正答率に課題が見られる。(P4)
- △自己肯定感や挑戦心、達成感、他者との協力など、児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成につながる取組を充実させる必要がある。(P21, 22)
- △学校全体で児童・生徒の主体的な姿勢を育み、言語活動の取組をさらに充実させ、考えを深めたり広げたりする学習へとつなげていく必要がある。(P22, 23)
- △児童・生徒の「自学自習」の習慣づくりのために、一人ひとりに応じた指導・支援を充実させる必要がある。(P23, 24)

こうした「強みと課題」を踏まえ、ここでは、各学校が児童・生徒の学力向上を目指し、取り組むうえで参考となる「学びの充実・改善ポイント」を示します。

ポイント1 学校研究を活かしたカリキュラム・マネジメント

- 教科や学年、学校種を越え、全教職員が主体的に関わる学校研究の取組を最大限に活かしながら、学校全体でカリキュラム・マネジメントを進めましょう。
- その中で、児童・生徒の実態把握や取組の検証を客観的に行うために、全国学力・学習状況調査を活用しましょう。例えば、児童・生徒質問紙から質問項目を絞って指標とし、全学年で年間に何回か実施することなどが考えられます。
- 児童・生徒にとって今後必要となる資質・能力について、全教職員はもとより、児童・生徒や保護者とも共有しましょう。そのために例えば、全国学力・学習状況調査の問題を全員で解いてみるといった取組が考えられます。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関して、
 - ・児童・生徒自身が、学ぶ意義や目指す姿を認識できるような指導場面を設定しましょう。
 - ・「考えたことを文章で書く→他者と考えを交流する→考えを深めたり広げたりする」活動の場面を多く取り入れましょう。

ポイント2 児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成

- 児童・生徒の学力向上のためには、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力の育成とともに、それらの基盤となる、学習に粘り強く取り組むことや、自らの学びを客観的に把握し、更に向上させようと工夫することなどの、児童・生徒の「学びに向かう力」を育てていきたいと思います。

- この「学びに向かう力」は、テストの点数等では直接測ることはできませんが、例えば、児童生徒質問紙調査の次のような質問を指標とすることで、自校の児童・生徒の現状をある程度把握することができると考えます。
 - ・ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか。
 - ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。
 - ・自分には、よいところがあると思うか。
 - ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか。
 - ・学級のみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか。
- 中でも、児童・生徒の自己肯定感を育むために、教職員は、児童・生徒一人ひとりの特性や可能性を積極的に認め、本人に伝えていきましょう。また、学級活動等において、全ての児童・生徒の出番や役割を設け、児童・生徒同士が互いの持ち味を認め合うような取組を充実させましょう。
- 児童・生徒の「学びに向かう力」を醸成することの意義等について、家庭や地域とも認識を共有しましょう。

ポイント3 児童・生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実

- 子どもの目線に立ち、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた丁寧で温かい指導・支援を行っていきましょう。
- 児童・生徒が自らの学習を振り返り、どこができるようになったのか、どこがまだ分からないのかを自分自身で把握して、分かるまでじっくり取り組んでみるといった、「自ら学ぶ習慣作り」が進むような指導・支援を行いきましょう。
- 家庭学習の課題の与え方等について教職員全体で共通理解を図り、例えば、自主的な課題に取り組むための「自学ノート」を活用する等の取組を行っていきましょう。

学校全体で教育活動の充実・改善を図るために本調査の質問項目を活用している！中学の先生の話

本校では、学校の教育目標や、研究テーマの実現状況を把握するための指標として、生徒質問紙調査の中のいくつかの質問項目に着目しました。そして、他の質問項目も加え、全ての学年で、年間3回の意識調査を行っています。

調査の後には毎回、教員の予想と実際の生徒の回答状況とを比較して、そのズレの理由や、改善のための手立てなどを検討します。

この積み重ねにより、私たち自身の日ごろの指導が、どのように生徒に伝わっているのかを把握することができます。

こうした生徒たちの実態を踏まえた分析を行うことで、「指導を効果的に行うことができている」と実感しています。



神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

神奈川県教育委員会では、学びの充実・改善に向けて次のような取組を進めています。各学校での取組の参考としてください。

■学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学習意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。

＜必携 かながわの学びづくり＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f534702/>

＜かながわ学びづくり推進地域の取組について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f534289/>

＜「確かな学力を育てるために」学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417749/>

＜学習評価関連資料＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/>

＜小学校・中学校「関心・意欲・態度」を育てるための学習評価を踏まえた授業づくり 実践事例集＞

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/27002_学習評価.pdf

＜学習評価を踏まえた授業づくりのために＞

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h26/pdf/26001_学習評価.pdf

■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。

＜かながわの学びづくりプラン＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f300518/>

■小中一貫教育の推進（H27～）

義務教育9年間を通して児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」を育む小中一貫教育を推進する。

＜小中一貫教育の推進について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f533778/>

＜学校運営・教育指導の重点及び各教科等の指導の重点＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6685/>

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。

■子ども一人ひとりの学びづくり支援システム開発事業（H29～）

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。そこで、小学校において、一人ひとりの児童の自学自習の習慣作り及び基礎的・基本的な知識や技能の定着に向けたPDCAサイクルの確立を目指す。

■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒の一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取組の改善を図る。

＜Let' s challenge!課題解決教材＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417579/>

■全国学力・学習状況調査の結果について

県教育委員会が分析し公表した本県の調査結果をホームページに掲載した。また、各市町村がホームページに公表した調査結果へのリンクを表示した。

＜全国学力・学習状況調査の結果について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f531252/h31gakujyou.html>

■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

全ての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成した。

＜自己肯定感を高めるための支援プログラム＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。

＜かながわ元気な学校づくり通信「はにい」＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/hanii.html>

＜かながわ「いのちの授業」＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/>

■「教室に行こう」（H26～）

神奈川県における学校の様子を広く県民に広報し、学校の教育活動の理解を得ることを目的として、神奈川新聞教育面「教室に行こう」を掲載する。同時に、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」にも掲載される。

県内の幼・小・中・高・特別支援学校において、教職員や子ども達が生き生きと学んでいる授業の様子を県教育委員会の指導主事が取材し、広報する。

<http://www.kanaloco.jp/special/serial/schoolroom/>

■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。

＜子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/gakkyukeiei-point.html>

■その他関連資料

<インクルーシブな学校づくり Ver. 1.1>

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h30/pdf/インクルーシブな学校づくりVer_1_1.pdf

<支援を必要とする児童・生徒の教育のために（平成31年3月版）>

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/soudanSnavi/tameni_h31_3.html

<外国につながるのある児童・生徒への指導・支援の手引き>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/documents/gaikokutunagarii.pdf>

<手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f535303/>

<いじめ問題への対応について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470374/>

<いじめを絶対に許さない—緊急アピール—>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/kinkyuappeal.html>

<神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/kanamonkou.html>

<子どもの安全を守る6つの点検>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/anzentenken.html>

<いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
校種を越えたメッセージ～>

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/pdf/いじめのない学校づくりのために.pdf>

<資料「わたくしたちの生活と進路」について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6687/h31watasinn.html>

<指導資料「小・中学校における政治的教養を育む教育」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537244/>

<県立総合教育センターの刊行物一覧>

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/index.html>

【参考】国立教育政策研究所「授業アイデア例」

国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実に資する際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして「授業アイデア例」を作成し、学校や教育委員会などに配布するとともに、ホームページに掲載している。

<国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>